

Success Story from KODAK

毎時 60 版の高生産性を誇る Magnus 800 で Sword サーマルプレート を 170 社の印刷会 社に毎月 10,000 版以上供給。

約 170 社の印刷会社に刷版を供給する 製版・刷版のプロ集団

有限会社大栄製版は、東京・板橋区に本社を構える製版・刷版のプロ集団である。昭和 45 年の創業以来、最先端の技術と生産設備を次々と導入しながら、激変するプリプレス業界で確かな地歩を固めてきた。CTP 化への移行もいち早く果たし、現在は 2 台の CTP ラインと従来からあるフィルム刷版ラインを駆使して、東京・埼玉エリアの大小 170 社を超える印刷会社に信頼性の高いプレートを提供している。現社長が印刷会社から独立しスタートした製版ビジネスも、今では従業員 28 名を擁するまで成長し、今後もさらなる飛躍を目指している。



Magnus 800 の MCU は出力中でも他のカセットに刷版のセットが可能



代表取締役社長 平塚 義昭氏

毎時 60 版の瞬発力で 顧客に高い安心感を提供

同社がコダックのプレートセッター Kodak Magnus 800 Quantum を導入したのは、2009 年 9 月のこと。導入の経緯について代表取締役社長である平塚 義昭氏は次のように語っている。

「毎時 60 版という驚異的なスピードに興味を引かれました。ショールームでは実際の速度を時計で測って、ようやく信じることができました。この瞬発力が必要と考え、Z スピードモデルの導入を決断しました」

入稿データを受け取って、刷版を出力し顧客に届けるまで、製版会社に時間的な余裕はほとんど

ない。印刷会社にとって時間厳守は当たり前。夕方入稿で当日配送という要求も少なくない。こうした急ぎの仕事で Magnus の瞬発力が威力を発揮した。これまで深夜 12 時までかかっていた仕事が 8 ～ 9 時には終わるようになり従業員の負担が軽減。残業コストの削減という経営メリットも生まれた。さらに Magnus なら、300 線の仕事でも露光のスピードに変わりはない。「午前中に Magnus で 180 版出力したこともある」と平塚社長は喜んでいる。こうした瞬発力と共に高く評価されたのが、割り込み仕事への柔軟な対応力だ。CTP 機長である藤崎 徳太郎氏は、そのメリットについて次のように語ってくれた。

「割り込み仕事の場合、他社製の CTP では機械



CTP 機長 藤崎 徳太郎氏

2 台の CTP ラインが設置された 1 階の刷版ルーム





同社2階にあるDTPルーム



刷版の在庫は常時40～50種類を用意



リターナブルタンクを使用した集中補充装置

を一旦止めて、版を入れ替えてから出力していました。しかし Magnus なら機械を止めずに出力中でも他のカセットに版をセットできるため、タイムロスがほとんどありません」

同社が出力する版サイズは菊四裁判から B 全判まで、版厚も 0.2 / 0.24 / 0.3mm で、その種類は 40～50 種類と多岐にわたる。版の種類が次々と変わる同社にとって、Magnus 独自のマルチカセットユニット (MCU) システムが確かな戦力となっている。

コダックの迅速なリモートサポートで稼働時間を大幅に向上

藤崎機長はコダックのリモートサポートも高く評価している。リモートサポートとはコダックの技術者がインターネットあるいは電話回線を通して、CTPおよびワークフローの遠隔診断と修復を行うサービスのこと。トラブルによっては遠隔操作だけで復旧できるため、CTPのダウンタイムを最少限に抑えることができる。もう1台ある他社製 CTP は「サービスマンが来るまで原因が分からず、復旧まで最低でも半日はかかる」という。

刷版はコダックの Sword サーマルプレートに統一

Magnus 800 の隣には他社製 CTP ラインが設置されているが、現像機はいずれもコダック製だ。以前はコダック製プレートと他社製プレートを使用していたが、現像機が別々のためトラブルで CTP が止まった場合、そのラインでは現像ができなかった。こうしたトラブルは顧客への正確な時間対応が命となる同社にとって致命的だ。これを回避するため、現在はすべてコダック製プレートに統一している。契機となったのはコダッ

クのサーマルプレート Kodak Sword の採用だった。その理由について平塚社長は次のように語っている。

「廃液が削減でき、液交換やメンテナンスも容易になると聞いて、コダックのプレートを Sword に変更しました。Magnus の導入前で 2008 年 9 月のことです」

月産 10,000 版以上を出力する同社にとって、現像機のメンテナンスは品質を維持する上で特に重要な作業だが、負担が大きいのも事実である。しかし Sword プレートを導入してからは「メンテナンスの頻度が 3 分の 1 に減った」と平塚社長は驚いている。実際、現像槽の液交換は月 1 回から 3 ヶ月に 1 回になった。また現像槽やローラにスラッジの固着がないため、ブラシでゴシゴシこする必要はない。ヨゴレを水で洗い流して、あとは軽く手洗いするだけですむ。廃液を浄化する中和剤の使用量が格段に少なくなった。さらに顧客である印刷会社も「耐刷力が 2 倍になった」と高く評価する。こうした素晴らしい成果を目の当たりにした平塚社長は 2009 年 5 月、ついにすべての CTP プレートを Sword に統一することを決断した。他社製プレートにこだわる顧客数社には、テストを実施し納得を得た上で切り替えた。現在、2 台の現像機にはコダックの集中補充装置から現像液とガム液が自動的に供給されている。「従来の他社製現像機では 5 リットル入りの容器から手作業で補充していました。今は 60 リットル入りの専用タンクから自動的に薬品が補充され、大変便利です」

藤崎機長はさらに「空の容器を処理する必要もなくなった」と喜んでいる。コダックの専用タンクは返却・再利用が可能なリターナブルタイプで、環境にも配慮されている。

プレートをコダック製に統一したメリットは他にもあった。顧客との間で印刷トラブルが発生したときは、コダックの技術者が一緒に同行してその要因を解明してくれる。これにより、トラブルへの対応が俊敏になり、顧客満足度の向上にも確実につながっている。

信頼の技術力でさらなる成長を

同社では一定した品質が出せるコダックのデジタル PCW による品質管理にも力を注いでいる。毎朝、パッチを貼り込んだテスト版を出力して、刷版、すなわち CTP 機と自動現像機の品質を確認。これにより環境に影響されることのない安定した刷版を印刷会社に提供する。そこには刷版のプロとして確かなプライドがある。「大栄製版なら間違いない」と高く評価される信頼の技術力で、今後もさらなる成長を遂げるに違いない。



有限会社 大栄製版

代表取締役社長：平塚 義昭

従業員数：28 名

所在地：

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢1-22-2

TEL：03-3968-3655

FAX：03-3960-4087

<http://www.daiei-pm.co.jp/>

コダック 株式会社 グラフィック コミュニケーション事業部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 TEL.03-5577-1200/1250

大阪：06-6105-9670 名古屋：052-746-1290 福岡：092-707-0180

仙台：022-290-2070 札幌：011-590-5070 金沢：076-200-7159

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

<http://graphics.kodak.com>

Kodak

It's time for you **AND** Kodak